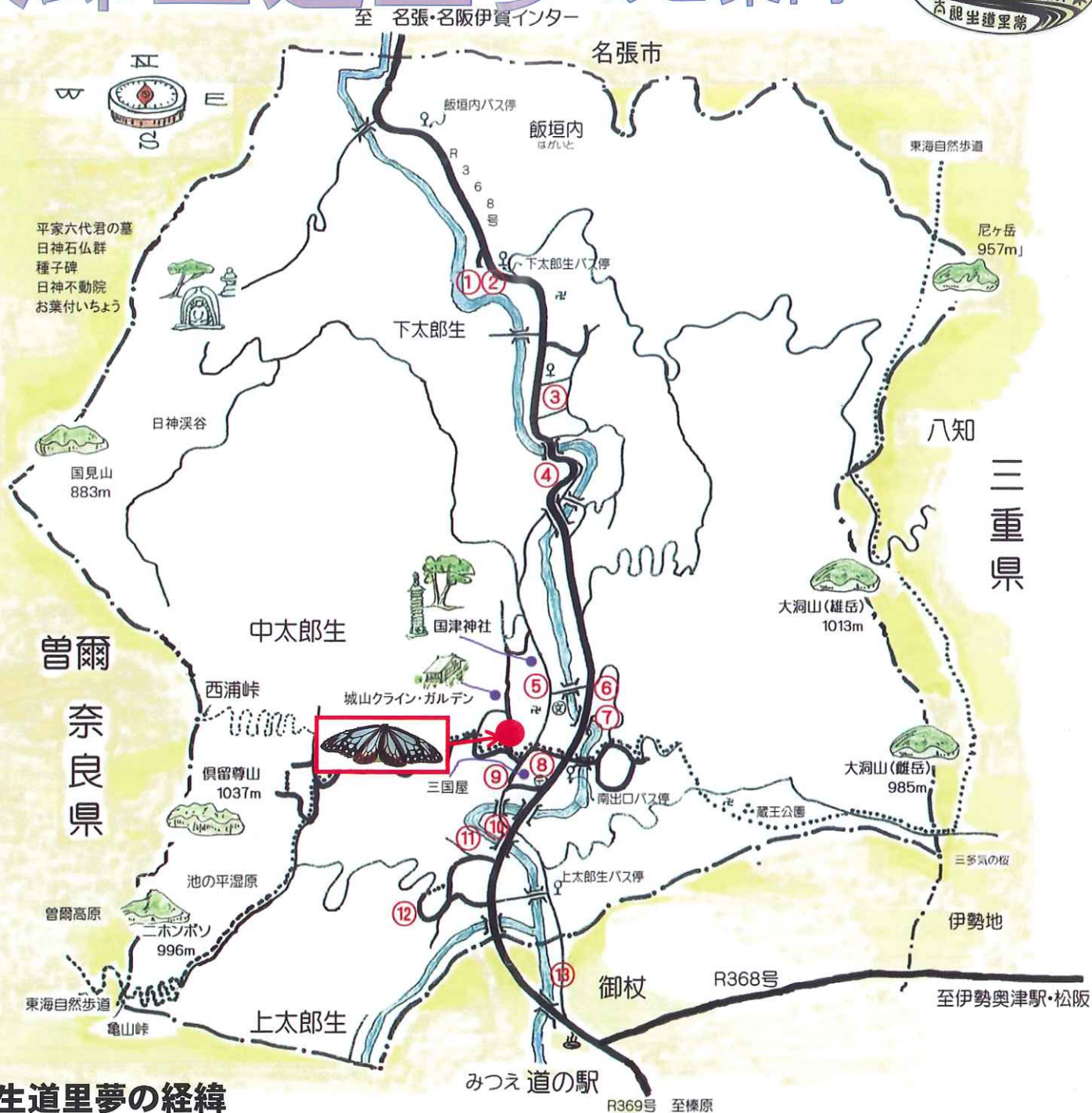


太郎生道里夢のご案内



太郎生道里夢の経緯

平成16年正月、小さなこの太郎生の村を何とかして元気に村おこしをしたいと思って趣味を持っている方々に声をかけた。太郎生を愛する人たちがばかりでボランティア精神いっぱいメンバーで、そば道場、わら細工、古布の工房、みやげもの店、特産品作りの人々、等々で賛同し、1つになれば大きな力となるからと「楽々村街道 道里夢」と名付けた。村祭りへの参加、貸し自転車で会員宅を回り体験や地元の良さを知って貰う事、朝市の実施、R368を花で結ぼうと桜、菜の花、アジサイ、水仙、そば等を植え四季の花で楽しんでもらうようと活動してきた。2011年から「アサギマダラの訪れる里」を目指して各家から持ち寄ったフジバカマの苗を植え皆で育て今に至っている。毎年10月にアサギマダラの祭りを行っている。

①木の工房こせ

お客様と一緒にデザインを
考えながら楽しんで作品を作っています
(自分用、プレゼント用、お祝い用等)
059-273-0231(こせ)

②木たろう

いろんな種類の
飾りの加工を賜ります



080-1559-8455(池山)

⑧丸八

おみやげと地酒の店丸八は
楽々村街道の案内所である。「俱留尊山と大洞
山」の地酒、かやの実の菓子、酒かすで漬けた
くろそ漬、季節のつけものいろいろ販売
059-273-0002(奥村)



⑨ホアビンテーブル

緑のキッチンカーで
いろんなところに出店いたします。

059-273-0162(井爪)

⑩木と布の工房やまざる

机、イス、木彫の小皿など製作。
スプーンの手づくり体験ができます。
古布を中心に生活雑貨づくりを楽しんでいます。
059-273-0288(北山)



⑪かじや工房

山でとれた材料で作上げたお城や、茅葺の家の
ミニチュアがたくさんあります
まちかど博物館です
059-273-0187(井上)



⑫そば道場清貧庵

そば打ち体験
まちかど博物館です



059-273-0905(国嶋)

③布の工房かなやま

大切な着物だから温かみのあるものを...
そんな思いから古布を中心に巾着や手提げ
などの小物を手作りしています
059-273-0692(金山)



④布工房志織

心いやしてくれる温かみのある古布を
ふれ合う喜びから手提、巾着、小物入れなど
楽しみながら作っています
059-273-0156(石部)



⑤たろうの店「ようこそ」

観光・田舎案内(路面凍結のため冬季休業あり)
田舎の日替わりランチ...600~900円
地元の鹿肉入りカレー...800円



059-261-2600(山崎)

⑥工房二人静

思い出の着物でミニ着物を、お出かけバック
小物、お箸袋、「工房」で教室いたします
わら細工体験、しめ縄販売、ちりめん細工等
059-273-0684(廣口)



⑦大洞農園

無農薬にこだわった
マコモタケとみょうがをお届け。

059-273-0198(浅尾)

⑬からと山荘

写真と鉄道ビデオと真空アンプで
レコードを楽しむ館

059-273-0156(石部)

個人会員

縁の下の力持ち 北畠一男
坂岡太郎生を愛する三人娘
何でもできる伊藤さん

アサギマダラとは？

アサギマダラは羽の長さが5~6cm、翅を広げると10cmになる大型の蝶です。

白と褐色の模様と、ステンドグラスを思わせる透けるような薄い浅葱(あさぎ)色の斑(まだら)模様の翅を持っています。

浅葱色とは新選組の羽織の色としても知られています。

名前に付いているアサギとはこの翅の色から来ています。

アサギマダラは「旅をする蝶」として有名です。

羽化した成虫が、秋に東北地方から九州、沖縄、台湾まで2000km以上を移動し、冬の間は、暖かい南の島で産卵します。

そして、新たに繁殖した次世代の蝶が翌年春、秋と逆のコースで渡ってきます。

このように、季節により長距離移動(渡り)をする日本で唯一の蝶なのです。

アサギマダラにマーキング？

1980年、全国の有志によって、アサギマダラの翅に油性ペンでマークを付けて放し、次に見つかったところを結んで移動経路を調べようという調査が開始されました。

マーキングと言いますが、このおかげで今では春に北へ、秋に南へ移動をしていることが解明されてきました。

しかし、移動の範囲の全貌は明確でなく、まだまだ謎だらけの蝶です。

なお、アサギマダラの翅には鱗粉がほとんどないので、マジックでマーキングしても羽を痛めることはありません。

アサギマダラの幼虫って？

春に本州に飛来したアサギマダラは卵を産んで一生を終えます。

そして、秋に成虫となった個体が再び南方を目指すというサイクルを繰り返しています。

誰に教えられるという訳でもなく、本能として身につけている行動なのではないでしょうか。

アサギマダラの幼虫はキジョランなどのガガイモ科の植物の葉を食べます。

これらには毒が多く、これを食べた幼虫にも毒が蓄積されます。

この毒は幼虫のみならず成虫にまで引き継がれるので、もしも鳥がアサギマダラを食べることがあれば、毒にあたって痛い目に遭うという仕組みなのです。

アサギマダラの好きな花は？

秋のアサギマダラはフジバカマが大好きです。

フジバカマの蜜には毒素の元となる要素があり、この花を好んで集まるのは毒素を体内に貯め、鳥に食べられないようにしています。

長距離を飛ぶため、それだけ敵に遭遇する確率も高いということなのでしょう。

アサギマダラはあまり襲われることがないと知っているためか、近づいてもほとんど逃げることはありません。

捕食できるものならしてみろといったところでしょうか。

小さな身体で長距離を飛ぶ事といい、見かけによらず随分と逞しい蝶なのです。

アサギマダラの謎？

普通の蝶は羽化後一週間ほどで、翅がボロボロになりますが、アサギマダラの翅は2000km飛んでもそのままです。

小さな体の何処に海を渡り、長距離を飛び続ける力が秘められているのでしょうか？

アサギマダラは半年から一年くらいの命です。

ですから、南下するアサギマダラと、北上するアサギマダラはそれぞれ別の個体です。

世代をまたいでどうしてこの行動をしているのでしょうか？

また、渡りの時期が来たことをどのようにして知るのでしょうか？

そして、毒をもつ植物を食べているアサギマダラには他の昆虫や、鳥も近づけません。

摂取したアルカロイドをどうやって他の動物への防御物質に転用しているのでしょうか？

近年、その生化学の解明も注目されています。

アサギマダラはいつくるの？

太郎生には、大好きなフジバカマが咲き始める10月上旬から飛来、中旬ごろが最も多く飛来します。

この時期はアサギマダラだけでなく、フジバカマの蜜を求めて、様々な蝶が飛び交います。

アサギマダラの乱舞が見られるのは、8時~14時くらいがおすすめです。

気温が下がると山に休みに帰ってしまいます。

日中温度が下がると温かい地方へ南下(渡り)し始めるので、11月上旬には姿が見られなくなります。